



酒々井にあった幕末の寺子屋「青樹堂」は、平成22年度に公民館事業としてよみがえりました。

せいじゅうどう 「青樹堂」

講師は元教師の学習ボランティアの方々です。



第1回青樹堂は、10月9日にスタートしました



児童20人に先生8人が熱心に指導していました

10月から、子どもたちの自主的な学習を支援する「学ぶ土曜日・青樹堂」が、中央公民館でスタートしました。本年度は、小学校3・4年生を対象として、算数と国語を中心に、教員経験のあるボランティアの方々、子どもたちの学習の支援をお願いします。

「青樹堂」の歴史と歩み

江戸時代から明治初期にかけて社会の激変を背景に学習することが求められ「寺子屋」「私塾」が全国的に群立しました。この状況は人口減少と高齢化社会、インターネットによる情報化社会など日本人がかつて経験したことのない社会の到来を背景に、生涯学習が重要となっている現在と似通っています。

この時代、酒々井町にもいくつかの「寺小屋」が開かれ将来を担う子どもたちが学んでいました。そのひとつが酒々井下宿に住んでいた石井平兵衛が開いていた「青樹堂」です。平兵衛は江戸で仕立業と学問を学んだ後に酒々井に帰り、仕立業のかたわら塾を開き、弟子が多くなると宅地内に2階建

の塾舎を造り、教育に専念したと伝わります。

塾生は明治5（1872）年で男50人、女30人であったと言われ、翌明治6年に酒々井小学校の前身である「中川小学校」が男62人、女22人で開校していますからその規模を伺うことができます。

当時の「寺子屋」は単に読み書きを教える場所ではありません。師匠が弟子に礼（禮）を通じて学問を与える場でした。礼（禮）は人間関係の基本です。「きちんと挨拶ができるか」「人を敬えるか」「人の過ちを許すことができるか」「感謝の気持ちを述べることができるか」が寺子屋の教育でした。

明治4年、平兵衛の徳を慕う弟子によって建てられた「寿陵」には203人の弟子たちの名前が刻まれています。時代が変わり学習をする内容は変わりますが、学習の目的は人生をより豊かなものとするための知識と、社会をもに生きていくための知恵の習得であることには、変わりありません。お問い合わせ 社会教育課 社会教育班 ☎321

街かど ウォッチング



バリアフリー化され、窓口カウンターも利用しやすく改修された役場中央庁舎1階